


平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	赤谷地域活性化モデル事業
対象地域	新潟県 新発田市 赤谷地域
活動概要	<p>【地域の現状と課題】 赤谷地域は、新発田市の最東端に位置し、上赤谷第1、第2、滝谷、滝谷新田の4つの集落から成る中山間地域である。江戸時代には会津街道の要衝として栄え、また明治時代になると石炭や鉄鉱石が発見され、昭和25年には、地域の人口が4,200人まで増加した。しかし、鉱山の閉鎖や農業情勢の変化に伴い、過疎化、高齢化が進行し、現在、地域の人口は595人にまで減少し、高齢化率も47.1%(平成19年4月)となっており、担い手世代の過重負担に加え人手不足による相互扶助機能の低下など、地域活動が停滞してきている。</p> <p>【モデル事業で実現したいこと】 地域の活力を取り戻せるよう、市内の大学生、高校生をはじめ行政、地区外住民を加えた協議会を設置し、同地域に点在する多様な資源の利活用や交流事業の実施、集落機能強化や高齢者対策などを通じて、そこで暮らすことに誇りと愛着の持てる地域を創造するとともに、「新たな公」を担える赤谷サポートクラブの創設に向け活動を行うことを目的とする。</p>
今年度の主な取組	<p>① 自主防災機能の強化や高齢者対策、集落連携機能再構築の検討 赤谷地域住民が主体となる本協議会が中心となって、自主防災組織の立ち上げや高齢者、障害者等の避難誘導、安全確保について協議を行うとともに、各集落の連携体制の構築を図る。</p> <p>② 同地域に点在する資源の利活用とネットワーク化の検討、イベントの実施 かつて会津街道の要衝として栄えた街道を起点として、山菜・茸、山野草等の自生地やマタギ文化・料理、携帯食であった「やろもち」、溪流などをめぐり、ツアー企画や資源マップの作成を行うとともに、700年の歴史を持つ「どんつきまつり」体験参加ツアーや地域の食文化や収穫物を利用した「収穫祭」イベントを実施し、赤谷地域のPRとファン獲得のための活動を行う。</p> <p>③ 将来的運営組織：赤谷サポートクラブの創設 高校生・大学生との協働による取り組みや各種イベント等を通じて赤谷ファンの増加につとめ、その中から理解者、支援者を募り、今後も高齢化が進行する赤谷地域の諸活動のサポートができる「赤谷サポートクラブ」の創設について検討を行う。</p>
活動結果	<p>高齢化の進む集落内において、多様な問題が山積し「あきらめ」の気運が蔓延していたなかで、「赤谷小学校区連携協議会」を創設し、課題解決のための取り組むことにより、各集落の人々が懇談する機会が得られ相互理解が深まるとともに共助の意識が醸成された。</p> <p>また、自分たちだけでは解決が困難であったこと、例えば「生活交通の確保」、「災害時の安全避難」、「PR イベントの実施」などについて、多様な組織や団体、人材から参画を得て協働で事業を進めることにより、効果的なアイデアや方策がもたらされ活動が好転した事に加え、イベントなどの実施を通じて多くの人が地域に来訪することにより、自分たちの暮す地域の魅力を再発見、再認識しふるさと赤谷に愛着を深めることができた。</p>

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	赤谷地域活性化モデル事業
対象地域	新潟県 新発田市 赤谷地域
当初予想していなかった効果	<p>当初は各集落の役員などを中心とした事業実施であったが、活動が進むにつれ、多くの高齢者や女性が率先して役割を担い、深化するとともに、これまで活動に消極的であった若年層もそれに触発され、参加するようになった。</p> <p>また、事業経過やイベント情報の発信を通じて、市内他地域に居住する赤谷出身者との交流が深まり、週末帰省する者が増加した。学生たちの提案により実施した、地域の伝統料理である「やろもち」に光をあてたイベント企画では、新聞等での告知もあいまって予想以上の参加希望者があった。(30名の定員に対して55名の応募)</p>
実施状況(写真)	 <p>【写真】小学生と高齢者による「やろもち」づくり</p>
応募団体名	赤谷コミュニティ連携協議会
リンク	
部局／担当者名	新発田市企画政策課 市民まちづくり支援課 交流係 清田 稲盛樹
連絡先	0254-22-3101(内線1362)
推薦市町村名	新潟県新発田市